



衣川 寛介

『磁石山』

磁石山と呼ばれる方位針を狂わす山があります。今知られているのは二ヶ所で、一つは龍門山の磁石岩、和歌山県紀の川市にあります。もう一つは山口県須佐町の高山にあります。残念ながら、まだ行ったことはありません。

12月号の『夢通信』、『じしゃく頓智才兵衛』の話を書きましたが、その中に沖に行く舟の釘が磁石についてしまって舟の沈む話がありました。日本海に面する須佐町の磁石山にも同様の伝説が残っていますが、やはり江戸時代の前半、五代将軍綱吉から八代将軍吉宗の時代『採葉使』が岩手県で磁石を発見して以降に出来た伝承と思われます。

インターネット上で友人になった中西様（神戸市在住）は『和鉄の道』と題する興味深いホームページを開設され、製鉄伝承のある地域や遺跡などを走破され記事としてアップされています。その龍門山の磁石岩、記事の一部分を転載させていただきます。

周囲17m 高さ4mの蛇紋岩の大岩で頂上部の縦走路にどっかりと座っている。方向磁石を近づけると磁針が狂う。またマグネットを近づけるとパチンと石の表面にひっつく。間違いなく磁石岩。また、古墳時代、この紀ノ川を遡っていった人たちは 磁石が鉄を吸い付ける事や方位磁石を知っていたのだろうか・・・

山口県須佐の高山の頂上で見た磁石石は斑レイ岩であったが、この龍門山の磁石岩は蛇紋岩。どちらも 鉄分（磁鉄鉱）を含む深成岩質である。近畿にも生駒山系にあると聞いて、探していたのですが、この龍門山で出会えました。磁石岩の上に載って、コンパスの磁針の狂いをみたり、マグネットを取り出して 石の表面に引っ付けたり。磁石の指針が大きく狂う。しかも、石の位置で指針の方向が違うのはこの岩が一つの磁石であるためか・・・また、マグネットを石に近づけるとピタッと引っついてしまうコンパスを岩のあちこちに持っていったり、地図の方向と磁針の狂いを調べたり、マグネットをあちこちに引っ付けたり30分ほどこの岩に乗っかっていました。大きな磁石岩にほんとうにびっくり。

私も是非、見たいものです。まだ、他にも磁石山があると聞きますので、ご存じの方は教えてください。

須佐町（すさちょう）は、山口県北東部にあった町。町名の由来はスサノオノミコト（須佐之男命）の伝説です。2005年の市町村合併により、萩市の一部となりました。

蛇紋岩は マントルに一番近い超塩基性の深成岩でカンラン岩が熱水などにより変質した変成岩です。鉄やマグネシウム クロムなど鉱物を含む。

参考資料

1. 磁石の魅力 板倉聖宣 仮説社 1980年
2. インターネット 和鉄の道 中西睦夫
<http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/>



方位針を狂わす。

「鉄のふしぎ博物館」
来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

鉄を見る目が変わりますよ。
ぜひお越しください。



ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/auto/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/catena/ryou@memenet.or.jp>

むらの鍛冶屋



今年も宜しくご指導ください。